

こくりにゅうだより



大阪府立池田高校2年 佐藤 真優

「満開の桜の卒業式を描きました。」

メディアリテラシー講座
～テレビの向こうの
外国人～

3/3(土) 10:00～16:00

メディアが映し出す「日本人・外国人」のイメージを分析し、多様性について話し合う。

要申し込み・先着30名、保育あり(3月2日(金)までに要申し込み)

参加費:500円

国流シネマカフェ
「フォレスト・ガンプ」
3/17(土) 18:00～20:00

申し込み・先着20名

参加費:無料

(当日ドリンク販売あり)

外国人向けセミナー&健康相談会
子ども～思春期の性と生について考える

3/23(金) 13:00～15:30

えんばわめんと堺・北野真由美さんによる子どもの性についてのセミナー、心理士・保健師による無料個別相談会。

英語、中国語、韓国・朝鮮語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、スペイン語、ネパール語の通訳あり。

要申し込み・先着40名

参加費:無料

日韓間で考える“表現の不自由”と民主主義を開催しました！

韓国と日本の表現活動取材し、支援している岡本有佳さんによるセミナー『日韓間で考える“表現の不自由”と民主主義—検閲、規制、自粛と抵抗—』が2月16日（金）にセンターで開催され、平日の夜にもかかわらず30人以上が参加しました。



はじめに、韓国国内の市民運動を日本のメディアがどのように取り上げているのか、実際の映像と、それにあてられた字幕を分析しながらお話いただきました。また反体制的とされた文化人のブラックリストの存在が明らかになるなど、朴槿恵政権下で行われた検閲とそれに対抗する市民活動も取り上げられました。弾圧された文化人が市民と共に繰り広げたこの活動では、閉館させられた芝居小屋が光化門広場に再建されて芝居が上演されたり、メッセージが盛り込まれたアート作品の展示が行われました。市民自身が自由な表現を通じて活動を行っていたという特徴がありました。また朴槿恵政権退陣を求めた“ろうそく集会”についても報告され、一連の市民活動が一定の年齢層だけではなく若者、とりわけ中高生にも広がり、シュプレヒコールだけではなく歌や踊りなど多様な表現活動で行われ、文字通り国民運動に発展していったことをご紹介いただきました。

今回デモや集会が韓国国内で行われたことに関して、日本のメディアでは韓国の民主主義の成熟度に疑問を呈する声もありました。しかしながら、「違う」と声を上げること、それこそが民主主義ではないでしょうか。今回韓国で起こった出来事は、同じ時代を生きる私たちにとっては知らなければならないことと言えると思います。



コラム 外国人相談あれこれ（第47回）

吉嶋がおり（外国人のための多言語相談サービス・相談スタッフ）

「シェアード・デシジョン・メイキング(shared decision making)」とは、病気の治療において、科学的な根拠をもとに、医療者と患者が一緒に治療方針を決定するという考え方です。「インフォームド・コンセント」は、治療に関わることについて、医療者が患者に説明し、患者の同意のもとに治療を進めるもので、この言葉は浸透し、実践されるようになってきています。インフォームド・コンセントは、治療効果の確実性が高い場合に用いられていて、シェアード・デシジョン・メイキングは、効果の予測が難しいとか、慢性的な病気や、様々な治療選択がある場合などに取り入れます。患者の自己決定を重視するもので、医療現場で導入しようとしてきているそうです。

この用語を聞いて、とても興味深いと思いました。移住者などを対象とした相談では、当然求められている姿勢であり、実践していることでもあるのですが、医療においては、新しい考え方としてとらえられているようです。私自身、シェアード・デシジョン・メイキングで治療を受けた経験は、これまでのところありません。

「移住者（在住外国人）」と「患者」は、共通項があります。どちらも、情報弱者であり、自分での対処は困難を感じやすいでしょう。自分自身でできることや自己選択が限られていたり、選択・決定への不安やリスクを感じます。ですので、治療と相談対応にも、共通するところがあるのではないかと思います。

多言語相談サービスでは、相談者の訴え、ニーズ、思いを理解したうえで、取りえる選択肢を提示し、それらがどういふものか、どのような展開が予想されるかということを説明します。Aさんは、就労先の横暴な態度や差別的な待遇などに耐え難い気持ちを持ち続けていたのですが、ある日突然、逃げ出しました。ですが、行くあてや先の生活の見通しがあつたわけではなく、追い詰められた気持ちからきた行動でした。Aさんは仕事を辞めたいし、上司にも会いたくない、住んでいた地域も怖いから戻りたくないと訴えました。その状況において、Aさんにある選択肢は限られてはいるものの、いくつかの方法が考えられました。私はそれらの選択肢を提示し、そして、それぞれがどのような展開が予想されるか、どういうメリットとリスクがあるかということの説明をしました。大切なのは、提示する選択肢はどれも、Aさんの求めに沿ったもので、そしてAさんが見通しを持てるものであることです。自分で見通しを持つことができると、追い詰められた気持ちは落ち着き、自分のペースで、自信をもって行動することができるようになります。そうすると、それぞれの選択肢で想定されるリスクも引き受ける気持ちになれます。

当事者にとって必要な支援というのは、基本的にはシェアード・デシジョン・メイキング、つまり、当事者が状況を理解し、自分で選択でき、それを引き受けていけるようになるためのサポートなのではないかと思います。不条理なこと、困難なこと、悲しみや怒りを強く感じるようなことを、なんとかしたい（医療では完治）という気持ちになるのは人情です。ですが、支援者にできるのは、当事者の選択を助け、ともにいること。それが、当事者に自分の人生を生きてもらうことにつながると 생각합니다。

＼Youは何しに国流へ？／ 第6回 センターで活動している人を紹介します☆

豊中市の広報とよなかに、にほんごボランティア募集の記事を見たのがきっかけでした。海外で現地の人たちに色々教えてもらった経験から、今度は私が何かできないかなと思い、ボランティア活動に参加してみようと思いました。

母国語ではあるけれど、日本語を教えるのは初めてのこと。どうやって教えたらいいのか分からず、いろいろ研修に参加しながら勉強しています。

毎週会う学習者からは、一生懸命学ぼうとする姿勢にいつも刺激を受けています。金曜日の多文化子ども保育「にこにこ」では、保育のボランティアにも参加しています。子ども達が他のお友だちとの関わりで学ぶことも多いので、様子を伝えるため保護者との会話も大切にしています。

国や文化が違っても人とのつながりは同じだと強く感じています。



とよなかにほんご木ひる・多文化保育にこにこボランティア

金子 直代さん



2/25(日)フオトレポート

おまつり地球一周クラブ ～チョアチョアコリア・お正月編～



韓国出身の講師からお正月の過ごし方や挨拶の方法を教えてもらい、お正月にする遊び（トッホ、チェギ）を体験して盛り上がりしました。

韓国のお餅、トックについて紹介（トック餅の作り方や、トックの種類等）してもらい、牛肉で出汁をとったトックスープをみんなで作り、美味しく頂きました。こどもたちから沢山質問も飛び出し、活気のある、楽しい活動になりました。



Vamos!!



(最終回)

昨年度、ブラジルからコラム「Vamos!!」をお届けしてくれたネルソンさん。最終回は協会での活動を通して感じたことについて書いていただきました。

皆さまお久しぶりです、ネルソンです。ブラジルから帰国して早いもので1年経とうとしています。今回は、私がブラジルに行くまでに協会の活動の中で感じていたことを書こうと思います。

協会では様々な活動に関わりましたが、特に長い時間をかけていたのは小学校外国語体験活動のような、講師として自分のルーツやこれまでの経験を話す活動でした。始めた頃は、それまであまり出来なかった話が出来たことに喜びを感じ、色々な人の感想を聞いて元気をもらっていました。しかしある時から次のように考え始めました。

「見た目でマイノリティだと分かる私は自分からアピールしなくても自分について話す機会がある。でも見た目でマイノリティだと分からない人たちは自分から声を出さなければ誰も話を聞いてはくれない。それは不公平ではないのか」

それからは、自分が話す時間を少しでも「話す機会がない」人たちのために使おうとしてきました。自分の話はきっかけとして使いますが、ゲームやアクティビティを通して「私だけが特別なのではなくてこの場にも、いろんな違いがある人がいる」ことを伝えました。そして、私の話を聞いた人が「私も自分のことを話していいんだ」と思えるようになればと願ってきました。どれだけ成果があったかは分かりませんが。

今私は新しい仕事をしていて、これまでのように国際交流や多文化理解の活動にどれだけ関われるのかわかりませんが、もしこの先また人前で話す機会があるとしたら、「選ばれた」人間の役目として「選ばれなかった」人たちの存在に気づいてもらえるように努めることは忘れないでいたいと思います。

ネルソン百合子



(筆者前列左側)

登録グループの活動紹介



No.6 大家一起説漢語

——授業ではどんなことをされていますか？

佐谷：大体は中国語レッスンが中心で、言葉を学んだり、中国の習慣を紹介したり、いろんな活動を通して中国をまるごと勉強しています。

——中国語を教えたいという思いはずっと持たれていたんですか？

佐谷：私は最初、子どもメイト(1995～2006年に実施していた事業)で指導員をしていました。ボランティアさんと一緒に子どもに日本語を教えていたんです。来ているのは外国にルーツを持つ子どもたちで、本当にいろんな国の子がいましたね。そうすると、活動の中でボランティアさんが子どもたちになかなかうまく説明ができないということがよくありました。ボランティアさんが苦労しているのを見て、逆にボランティアさんに中国語や中国の文化を教えたら、地域に住む市民の人たちが中国のことを知っていたとしたら、もっと子どもたちともうまくコミュニケーションが取れるんじゃないかなと思って。それが動機です。

——日本語を教えるボランティアに、もっと教えたいということですか？

佐谷：そうですね。そのときは国流のスタッフから声をかけてもらって、広報でも人を集めました。考え方の違いとか、中国の文化、習慣とかも紹介できたし、言語だけでなく、中国の歴史や文化、風習とかもいろいろ紹介しますね。楽しくやっていけば、みんなも楽しく学べると思います。もし中国語に対する興味があればぜひ紹介して参加して来てくれたらありがたいなと思います。

——この間は料理会をしましたね。料理も評判良かったです、すごく楽しそうな雰囲気伝わってきました。

佐谷：自分で作ったらおいしく感じますもんね。普段食べられないものだし、「こんなものあるな～」とか。でも、最近は「日中」というと微妙な雰囲気がありますよね。ちょっと昔に感じられた、友好的関係になってほしいなと思っています。

——普段の生活のなかでもそういうふうに感じますか？

佐谷：やっぱりニュースとか聞いたりとかすると、嫌な気持ちになってしまいますね。自分の周りからはそんな雰

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。実際の活動内容や国際交流への思いを伺いました。

囲気は感じないけど、でもやっぱりみんなあまり中国には行きたくないのかなって思っちゃう。昔はけっこう生徒さんが毎年中国に旅行行ったりとかしてたんですけども、最近はあまり聞かなくなってるね。出張以外は。

——当事者と出合って実際に教えたり教えられたりすることで、そういう不安を越えていきたいですね。

佐谷：国民も個人個人で見ると全然問題ないですもんね。

政治問題や国同士の問題が入るとどうしても嫌な空気になってしまうことがあります。勉強することで、自分が今まで持っていたイメージと違った、すごくすてきなこともいっぱいあるやんっていうふうになる人もいると思うんです。そういうのは個人でもできることじゃないかなと思います。中国の文化とか番組とか紹介したり、中国の食事をみんなに提供したりして、認識してもらって、良いところと悪いところは、いいところが全部じゃないけれども、いいところも悪いところも理解した上で自分の判断をしてもらったら良いかなと思います。

——これからの目標などはありますか？

佐谷：去年の後半から中国語の歌を教えて、1曲はほとんどみんな覚えたところなので、2曲目に入るところなんです。

——今年のフェスタでは歌が聞けるかもしれない？

佐谷：頑張ってみようかなと思って。でも歌だけではつまらないから。人数が多く集まると、なんかプラス1つできたらいいなと思っているんです。

【活動についての問い合わせ先】

大家一起説漢語

06-6844-1864(佐谷)

活動日時：毎週日曜日19:00～20:00

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第107号(2018年3月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間:9:00～21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp

WEB:http://www.a-atoms.info/



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

